

## 令和3年度 茅野市・原村成年後見支援センター報告

## 1. 相談実績

## (1) 相談件数

## ① 全体（新規件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	25(5)	30(2)	36(14)	46(4)	35(3)	37(5)	44(1)	51(10)	55(8)	39(9)	30(11)	46(10)	474(82)
R3	42(11)	69(8)	32(3)	19(6)	26(4)	29(1)	41(5)	17(3)	22(5)	10(2)	21(1)	32(0)	342(48)
差	17 (6)	39 (6)	-4 (-11)	-27 (2)	-9 (1)	-8 (-4)	-3 (4)	-34 (-7)	-33 (-3)	-29 (-7)	-9 (-10)	-14 (-10)	-132 (-34)

## ② 相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族支援
R2年度	137	13	13	—	100	143
R3年度	84	5	14	46	62	104
件数差	-53	-8	1	46	-38	-39

## (2) 相談傾向・内容について

- ・（これまではあまり無かった）親族が申立を行い親族が後見人を希望する相談（3件）
- ・被後見人と直接面談が無く、申立審判が行われるケース（4件）
- ・社会福祉士会（ばあとなあ）に後見人等候補者を依頼するケース（3件）
- ・遺産相続手続きのため後見人を付けるよう金融機関から依頼され相談に至るケース（3件）
- ・親族間の金銭搾取から申立手続に至るケース（5件）
- ・任意後見に関する相談（5件）

## 令和3年度 諏訪市・下諏訪町成年後見支援センター報告

### 1. 相談実績

#### (1) 相談件数

##### ① 全体（新規件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	7	10	4	3	2	8	4	1	4	5	3	7	58
R3年度	5	4	7	2	5	8	4	5	3	7	4	5	59
件数差	△2	△6	3	△1	3	0	0	4	△1	2	1	△2	1

##### ② 相談元（被後見からの継続相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族支援
R2年度	78	11	27	109	132	86
R3年度	88	7	58	128	108	113
件数差	10	△4	31	19	△24	27

#### (2) 相談傾向について

- ・継続相談件数の増加（R元：273件→R2：379件→R3：438件）
- ・対象者の区分は、認知症：45%、知的障がい：38%、精神障がい15%
- ・主に行政・福祉事業所・医療関係者からの相談が増加
- ・申立人が高齢など、申立支援時の業務負荷が大きい

#### (3) 相談内容

- ・高齢独居で権利擁護上のニーズがある（主に包括・親族からの相談）
- ・親族がいない、または疎遠、または対立関係にあり、第3者の後見人が必要（主に福祉施設などからの相談）
- ・精神障害があり、長期入院中で地域移行が困難（主に医療機関などからの相談）
- ・搾取や消費者被害を受けていて、早急に介入が必要

### 2. 課題

- ・制度につながらない事案（浪費・多重債務・介入拒否）への対応

→特に通信システム（スマホ）の普及により、キャッシュレスで購買契約・決済が可能となったことで多重債務に陥るケース（特に知的・精神的な障がいのある若年層）が多くなっている。自己破産後も滞納がかさみ、通信費（決済機能を含む）を最優先することで生活が立ち行かなくなる事案について、解決方法が見当たらない。

- ・世帯内の重複課題への対応

→法人後見受任中のケースで、本人だけでなくその家族の課題への対応が必要なケースがあり、対応に苦慮する。

## 令和3年度 岡谷市成年後見支援センター報告

### 1. 相談実績

#### (1) 相談件数

##### ① 全体（新規件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	0	1	2	3	1	0	4	0	3	6	0	2	22
R3年度	0	2	3	3	5	3	4	5	4	4	4	4	41
件数差	0	1	1	0	4	3	0	5	1	△2	4	2	19

##### ② 相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族支援
R2年度	50	※市町村を含む	0	※市町村を含む	109	72
R3年度	62	※市町村を含む	2	※市町村を含む	206	76
件数差	12		2		97	4

#### (2) 相談傾向・内容について

- ・開所から3年目となり段々と後見支援センターが地域の方々から認知されてきており、前年度より新規件数が増加傾向であった。全体の相談件数も大幅に増加した。(全体の相談件数:延べ538件)
- ・電話対応が5割を占めており、訪問対応が3割程。来所は1割未満と少ない。
- ・延べ相談件数のうち、対象者の割合として「認知症高齢者」「知的障がい者」「精神障がい者」共に3割程。
- ・本人+親族からの相談が、約半数で一番多い。

#### (3) 相談内容

- ・特に「金銭トラブル」起因する相談が多いが、遺言に関する相談も増えてきている。
- ・家裁への申立て支援は、延べ48件。(前年度比+25件)
- ・法人後見受任の相談が延べ1件。(前年度比△6件)

### 2. 課題

- ・「成年後見制度」の利用で、「専門職」や「法人」等の第三者後見人を希望される場合、受任候補者を見つけることが難しい(専門職等のマンパワーに余力が無い)。今後、新たな担い手(市民後見人や、社協以外の法人後見人等)の確保が必要になってくる。
- ・「成年後見制度」以外の対応方法があるケースも多く、多職種との連携強化が重要になってくる。
- ・相談件数は増えているが、もっと市民の方に「成年後見制度」を知っていただく必要があると感じる。

## 令和3年度 富士見町成年後見支援センター報告

### 1. 相談実績

#### (1) 相談件数

##### ①全体（新規件数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R2年度	—	—	—	—	—	—
R3年度	6（3）	7（2）	6（3）	5（3）	4（4）	3（0）
件数差	—	—	—	—	—	—

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	—	—	—	—	—	—	—
R3年度	5（3）	5（2）	8（6）	3（1）	3（1）	7（1）	62（29）
件数差	—	—	—	—	—	—	—

##### ②相談元（被後見からの相談を含む）

	市町村	地域包括	障がい者総合 支援センター	福祉事業所	当事者・ 本人	家族・親族	その他
R2年度	—	—	—	—	—	—	—
R3年度	1	0	0	5	4	18	1
件数差	—	—	—	—	—	—	—

#### (2) 相談傾向・内容について

##### ①対象者の内訳

認知症：15名 知的障がい：3名 精神障がい：3名 その他（※）：8名

（※）その他：身体障がい・ボーダーの方・身寄りのない方 など

##### ②障がい者の方について

<独居の場合>

- ・ケアマネや日自担当者などから、財産管理の相談が多い。

<家族同居の場合>

- ・ご家族から、将来的に不安を抱え相談に来られる方が多い。

- ・後見人はついているが遠方にいるため、社協に日常的な支援を求められる事例もある。

##### ③認知症等の方について

- ・親族名義の定期預金解約の相談が多い。

- ・その他、身寄りがいないことによる将来の不安、遺言、任意後見についての相談などがある。

### (3) 相談内容

#### <関係機関から>

- ・判断能力が低下しているが独居で、金銭管理が心配
- ・判断能力の低下に伴う日常生活自立支援事業からの移行

#### <ご家族から>

- ・自分が倒れたら、成年後見人を社協にお願いしたい。
- ・障がいのある子どもに後見人をつけているが、遠方におり、頻繁にこちらに来られない。1人暮らしを始めるにあたり、日常的な金銭管理を社協にも協力してほしい。

#### <本人から>

- ・後見人がついていないが、自分の思う通りに支援してくれない。成年後見人はずしたい。

## 2. 課題

### ① 相談件数の伸び悩み

- ・法人後見を受任する体制は整えたものの、実績がまだない。後見申立まで行きつけた実績も令和3年度はなかった。

### ② 職員のスキルアップ・関係機関との連携

- ・第2期成年後見制度利用促進計画では、中核機関に、成年後見制度の利用者数増だけでなく、成年後見制度以外の方策も含めた、権利擁護の支援が求められている。このことに対応できるだけの、職員のスキルアップ、関係機関との連携が求められている。

→ 令和4年度においては、

「相談支援者がセンターにつなぎやすくなる関係づくり」

「相談が来るのを待つだけでなく、センターから発見しに行く姿勢」

を持ち、積極的に権利擁護事例に携わることが必要